

## ヨシ群落保全審議会におけるこれまでの議論について

## 第 36 回滋賀県ヨシ群落保全審議会（令和 3 年 1 月 18 日）

- ・ 貴重な野生生物種を始めとする生物についても、目配りするという姿勢が必要である。
- ・ 調査研究について、生物多様性の現状モニタリングをするという記載があると、施策や調査研究の拠り所になる。
- ・ 質的向上のための維持管理について、重点区域を絞っていくべき。市町に補助をして、市町からそれぞれの地域の皆さんの力をお借りするというようなことも一つの方法。
- ・ 自分たちがやらなければいけない、続けなければならない、ということを感じながら活動し、子どもたちにもつなげていくことが大切。
- ・ 生物だけではなく、ヨシとの関わりによる生業・地域文化の在り方も個々のヨシ群落と関係している。両者はともに支えあう関係にあり、持続可能性 SDGs にもつながる。
- ・ 地域のヨシ原ごとの群落ごとの個別の計画、カルテが要るのではないか。
- ・ 自然な水位変動が抑えられた水管理となって、地域とヨシ群落との関わりも少なくなってきましたというつながりがよく分からない。
- ・ 地域にはヨシを用いた伝統行事があり、ヨシの管理から利用まで、地域が主体となつて行って伝え続けてきた面もある。そういう ヨシとの精神的なつながりも含めた行事についても大事にしていくということを盛り込んでほしい。

## 第 35 回滋賀県ヨシ群落保全審議会（令和 2 年 10 月 12 日）

- ・ ヨシ刈り活動による CO<sub>2</sub>回収量の算定ツール取組について、さらに進めていきたい。
- ・ 科学燃料の代替等としてヨシを使うことで CO<sub>2</sub>排出量の削減効果も算出できる。
- ・ ヨシ利用の種類やパターンを増やしていかないといけない。
- ・ ヨシ群落保全基本計画改定に対して、造成から維持管理、保全に取り組む地域の思いを大切にして支える、持続的な取組にしていく等の意見。
- ・ ヨシ群落の開発について評価や議論の仕組みが必要。